

# 大地の恵み

blessing of the earth

2011

語り部交流会 in あきた

vol.13

H24.3

— 『結い』<sup>こころ</sup>の精神でつなげよう、秋田の元気、東北へ —

- 水土里の郷・鳥海 わくわく探訪 ～土地改良施設巡り～
- 2011秋田県中山間ふるさと・水と土『現地見学会』in 鹿角
- 農業用水を利用した小水力発電 — 整備実例と活用できる助成制度 —
- 東日本大震災への支援活動 — がんばろう東北!! —
- 平成23年度活動状況報告



あきた 食料・環境・ふるさとを考える地球人会議

# 2011 語り部交流会 in あきた

■日 時：平成 23 年 11 月 19 日 (土) 13 : 00 ~ 16 : 00  
■会 場：「まなびおん美郷」(美郷町公民館ホール)

## ～プログラム～

**1 講 演** 「美しき水の郷あきた」にみる農村の『結い』  
秋田県山本地域振興局長 **菅原 徳蔵**

**2 語 り** 「語り」を通して知る日本の『結い』の精神 こころ  
語り部・大阪芸術大学教授・武蔵野大学非常勤講師  
元 NHK キャスター **平野 啓子**

**3 意見交換会** 「農村における『結い』の精神を見つめ直す」 こころ

コーディネーター：**平野 啓子**

パネラー：**松田 知己** (美郷町長)

**伊藤 稔** (秋田県仙北平野土地改良区理事長)

**菅原 徳蔵** (秋田県山本地域振興局長)

オブザーバー：**齋藤 晴美** (前農林水産省農村振興局次長)

美郷町六郷「関田円形分水工」



美郷町千畑「大シズ」



主 催：秋田県

共 催：あきた食料・環境・ふるさとを考える地球人会議、農村振興技術連盟秋田支部

協 力：平野啓子（「語り部交流会」企画・開催指導）、農林水産省

後 援：美郷町、秋田県土地改良事業団体連合会





# 「結い」の精神でつなげよう 秋田の元気、東北へ



11月19日（土）、秋田県美郷町で「2011語り部交流会inあきた」（主催…秋田県、共催…あきた食料・環境・ふるさとを考える地球人会議、農村振興技術連盟秋田支部、協力…平野啓子、農林水産省）が開催され、地元の小中学生50名を含む約400名が参加した。

この語り部交流会は、身近にある疏水や農地が「結い」により受け継がれてきたこと、また『語り』を通して日本古来からの「結い」を知ることにより、秋田に宿り続ける「結い」の精神を再認識し、秋田の農村振興や東北の復興に繋げていくこと

ができないかを考えるという内容であった。冒頭、来賓の前農林水産省農村振興局長の齋藤晴美氏より、『語り』が持つ魅力やそれを活かした各地での農村振興への取り組みなどが述べられた。

交流会は二部構成で行われ、第一部では県山本地域振興局の菅原徳蔵局長が「美しき水の郷あきたにみる農村の『結い』」と題して講演。仙北平野を潤す田沢疏水の原野を切り開いたときの喜びをつづった仙北地域の人々の文章を紹介し、助け合いの暮らしの中で「結い」の精神が培われてきたことを浮かび上がらせた。

次に、語り部の平野啓子さんが、本県の農業指導者・石川理紀之助が残した格言や和歌を穏やかな語り口で紹介。「全ての人間には心の定規が必要で、定規が無ければ万事に迷うことになる。ただ、強い定規を持つ自分は偏屈だと言われる事もある」などとエピソードを交えながら話された。

続く第二部では、美郷町の松田知己町長と秋田県仙北平野土地改良区の伊藤稔理事長による、「結い」を活かした地域の取り組みの紹介を交えながら、意見交換が行われた。





## 語り

### 「語り」を通して知る 日本の『結い』の精神

平野 啓子

(語り部・大坂芸術大学教授・武蔵野大学非常勤講師・元NHKキャスター)

#### ○石川理紀之助翁

(農村振興と和歌)

明治から大正にかけて疲弊した貧村を次々に復興させ「聖農」と言われた石川理紀之助。その苦難多き人生と実践の中から生まれた訓言は、現代人が人生をひらく上で示唆に富んでいる。

#### 「心のじょうぎ（定規）」

すべての人間には、心のじょう木（定規）が必要である。

それぞれ心の「じょう木」をもつべきである。

これがなければ、万事について迷うことが多い。

たとえば、世の流行に対しても、心のじょう木をもっていれば、之をはかつて、じょう木にあえばとり、あわねば、いかに勢いの強い流行でも、これに従わない。

これ即ち、取捨選択のよろしきを得るゆえンである。

しからば、いかにして、じょう木を

つくるかと云うにはそれは（それは、東西古今の聖賢の教訓によるべきである）。

聖賢の教訓は尊いものであるから、よく心に入れて、更に日常これを実行して見て、はたして事実実際に適すればこれをとり用い、しからざれば、たとい聖賢の教えといえども、これをとらぬようにせねばならぬ。かくして、たえずこれをねつて行くべきである。

・農家にして蓄財を望まば耕地に貸付けて利を取れ

・樹木は祖先より借りて子孫に返すものとしれ

・人力のみにて成就するものは永久の産にあらず

・子孫の繁栄を思はゞ草木を培養することを似て悟れ

・国の経済を考えて家の経済を行え

・豊年にも大凶作があり氣をつけて見よ

・金銭はみだりに集むること易くしてよく使う事は難し

・僥倖の利益は永久のたからにあらず

「心の定規を持つべきである」・・・これ即ち、取捨選択のよろしきを得るゆえンである







## 2011 語り部交流会 ㊦ あきた

## 意見交換会

農村における『結い』の精神を見つめ直す



● コーディネーター 平野 啓子 (語り部・大阪芸術大学教授 武蔵野大学非常勤講師・元NHKキャスター)

● パネラー 松田 知己 (美郷町長)

伊藤 稔 (秋田県仙北平野土地改良区理事長)

菅原 徳蔵 (秋田県山本地域振興局長)

齋藤 晴美 (前農林水産省農村振興局次長)

● オブザーバー

## ● 平野 氏

「結い」の原点は農作業の労働力の貸し借り、或いは農道や水路を利用者全員で守っていくこととする普請ではないかと考えますが、まさに仙北平野の水利用は「結い」の精神が古来から現在に脈々と受け継がれてきた証ではないかと感じました。日本有数の穀倉

地である仙北平野の稲作が、古来から現在に至るまでしっかりと守り続けられている事は、こうした「結い」の精神が途切れることなく受け継いで来たことに他ならないと感じています。

まずは、オブザーバーとして客席でお聞き下さいました齋藤様に、これまでの感想を頂きたいと思ひます。

## ● 齋藤 氏

私にとって秋田県はどんな所かというところ、土地改良事業のメッカと言っても過言ではないと思ひます。私も全国様々な事業に携わってきましたが、八郎潟干拓ですとか、先程の田沢疏水、他に平鹿平野など沢山ありますが、どうして土地改良事業がここまで進んできたかと言いますと、今日のテーマでもある「結い」という事に尽きると思ひます。「結い」は社会的に見ると別の言い方で「農村協働力」と言ひます。大きく3つで成り立っていてその1つが「信

頼」ということです。そこに住んでいる方々、農家など皆が住んでいる集落も同じですが、それぞれが信頼すること。2つ目が「補助性」ちよつと難しい言葉ですが、お互いに補助し合う、お互い様ということ。松田町長、伊藤理事長もおっしゃっていますが、それは「相手の言葉を重んじる」「尊重する」「尊敬する」まさにそれに尽きると思ひます。3番目が「ネットワーク」。連絡しあつて、協力しあつて、そう言うことだと思ひます。先ほど、お三方のお話を伺つていて、偉人であつても、農家で耕作している人であつても、やはり「結い」の共通点があるのかなと言ひました。それぞれがポストで活躍の方ばかりで、自分が携わつた事を自らの言葉で話をされ、それを皆さんに語り継がれ、とても感銘を受けました。そんな事を思つて聞いていました。

## ● 平野 氏

では、パネラーの皆様にお聞きしたいと思ひます。これまでの発表やお話を踏まえて、昔から今に至る様々な形の「結い」において、本質的には今も昔もこの点が変わっていないんじゃないか。あるいは、この点は将来に引き継いで行かなければならない大切な部分ではないのか。そういった点について、どのようにお考えかを聞かせ頂きたいと思ひます。

初めに菅原様から、講演でお話いただいた農地や疏水の歴史から見る「結い」の精神と、先ほど松田町長、伊藤理事長からお話いただいた現在の取り組みの背景にある「結い」の精神の共通点、あるいは異なる点を踏まえてお話しただけですか。

## ● 菅原 氏

石川理紀之助は、米作りは個人では出来ない。あくまでも集団で作業する。集団の力をとにかく結集することを必ず守つたものです。確かに今は、ほ場整備で、機械化されて、個人経営的な要素が強くなつたり、地域の伝統文化が途絶えるという現象が起きていることも確かですが、松田町長や、伊藤理事長からお話がありましたが、幸いに「農地・水・環境保全向上対策」あるいは「中山間直接支払制度」などで、水路の維持管理とか、草刈り、道路の普請とか村ぐるみ、地域ぐるみで非農家も含めて協働作業をしております。そういう意味でコミュニティという形が再生されてきたと私は思ひ、「結



い」や「絆」のベースになるものが農業・農村の文化だと思ひます。昔、菅真澄が伝統芸能や伝統文化についてもかなり絵を書いたり、そう言うのもかなりプラスになつて来ている。農地・水・環境保全向上対策というのが、費用対効果に見えない部分であるけれど「結い」の精神を再生させる良い事業だと思ひます。今年度で見直しなので、是非、農林水産省にお願いしたいものです。来年度以降も継続して、バージョンアップし持続的に活用して頂きたいと思ひます。

## ● 平野 氏

確かに費用対効果ということで、すぐに見えてこない部分もあつて、それがずっと後になつて素晴らしい



効果を発揮するという事もありますので、本当にこれは大事な事だと私も思います。次に、伊藤理事長様と松田町長様をお願いしたいと思いますが、先程のお二人の取り組みで「結い」の精神という視点において、現在あるいは過去においてご苦労された点、あるいは反対にこれは自信をもっている点などを含め、お感じになつていらっしゃることをお話し頂けますでしょうか。

### ●伊藤 氏

当土地改良区の管内、6,000戸の農家、1万ヘクタールの田んぼに水を供給しているわけですが、やはり様々な方々がおられます。まさに我田引水型の方もおられないというわけではございません。しかし、これはあくまでも地域34個のグループの中で解決しましょうという大多數の農家の方、住民の方々の意識が非常に強いです。これは長年培われてきた「結い」の精神が確実にあるという一つの証しだと思います。そういう

ものを活かしながら、水配分を可能にする「用水管理システム」この二つを組み合わせる事により公平な水の配分と限られた水の有効活用、そのほかに災害の未然防止道路や屋敷に降った雪の処理、あるいは野菜を洗ったりする生活用水、防火用水、そういった多面的機能が十分に発揮されていると思います。これからこの機能を十分発揮できるようにシステムを構築して行きたいと思っています。もう1つは地域住民、農家全員が参加しておこなわれる維持管理費の軽減というべきものにも、相当大きい効果があると考えております。

### ●平野 氏

ありがとうございます。では、松田町長様、ご苦労している点、あるいは自信を持っている点などお話しただけですが。

### ●松田 氏

「結い」の心というのは、多分環境によって、中心に据えるべきことによつて姿が変わると思います。ですから、昭和40年代の「結い」の精神で中心に据えてあったのが協働作業であったかと思いますが、現在は協働作業ではなく、「結い」の精神は何処におくのか。それは地域の位置であり、コミュニティをどのように維持していくのかと言うことに「結い」の精神の拠点を置くべきではないかと考えます。

そこで、町では「みさぼーと（拠点センター）」を置き、地域のコミュニティを維持する拠点と

して「結い」の精神を発揮する場として今現在、設置・運営しているわけですが、「みさぼーと」を設置するにあたり大丈夫だろうか？登録してくれる人がいるだろうか？と思いましたが。しかし、思いのほか登録してくれる人が沢山いて、裏を返せばそれだけ地域の方々が地域コミュニティ、あるいは自分の能力を地域のために発揮するという認識が高いと言うことが嬉しかったです。一方、サボートの将来の課題として、登録してくださった年代層がアンバランスになる。どうしても、若い方は勤めておられる事もあって、高齢の方の登録が多く、若い方の登録が少ないという所がこれからのサボートの課題だろうと思っております。

もう1つは、今回、昔と今の「結い」について、改めて考える事になって、強く思ったのは「震災」です。震災はさけては通れない我々日本人に対して、他者との関わりはどうあるべきかということと問題提起したと思います。

「結い」の心を考えてみた場合、今一度我々は他者との関わりを当たり前の認識として考えて行かなければならない。この辺りが、昔と今の大きな違いかなと感じました。

### ●平野 氏

ありがとうございます。齊藤様、今までの意見をふまえて、どのようにお聞きになりましたでしょうか。

### ●齊藤 氏

「結い」という言葉が余り近年聞かれなくなつたと思うのですが、しかし他方で、皆さんもよく聞きになると思いますが「NPO」とか「ボランティア」という事です。私はある面、裏返しかなと思つています。阪神淡路大震災の時に、ボランティアが大勢、神戸・阪神・淡路などに集まってきました。それは誰が呼びかけるでもなくて、皆さんがそれぞれの意志で集まってきた。私は、それが近年の新しい動きだと思いますが、しかし根底では「結い」という事に繋がるのではないかと。自分の名声を得る訳でもなく、生き甲斐であったり、楽しみであったりするかも知れませんが、まさに無償の行為だから日本人の心に繋がっているのかなと。脈々と受け継がれているという気がします。

私はずっと霞ヶ関で仕事する事が多くて、「農地・水・環境保全活動」に、私はその調査・計画・モデル事業・本番事業にずっと携わってきました。ちょうど見直しの時期ですが、あの事業はたいへん人気があります。今日の午前中に湧水の所を2カ所見せていただきました。今日も会場へ行くとおっしゃっていました。本当に皆さん生き生きとされて、まさに優艶に語っていただきました。しかし、どうして活動に皆さん熱心に参加しているのか。これが地域の発展になるとか。みんなの為になるのだたら自分もそういう事に携わって嬉しいと思うのではないのでしょうか。





先程、松田町長のスライドで昭和40年代がありました。私も農家の子ですから、自分の田んぼの所に親戚の人が来たり隣近所が来たり、今度は反対に自分の所が終わつたら親戚とか近所に手伝いにやって、お昼はそこでおにぎり食べたり、お茶を飲んだりしたのを覚えています。その当時は、今から思えばとても貧しかったと思います。しかし、心は豊かだと思ふ。ほんとに楽しかったと思ふ。やっぱり皆さんのお話を伺つて、これから日本人は、そういった「結い」の精神を生かすような仕組みを、行政もそうだし、NPOとか町内会とかもそうですが、みんな考えてやっていくことが大事だと思ひます。

### ●平野 氏

昔に比べると、物質的・経済的に比べものにならないくらい豊かになつて、隣近所ですとか、地域の一員として行われている取り組みが、もう必然的にどうしてもなくちゃならないという事がなくなつた為に、個の時代とまで言われるようになりまして。やもすると私達自身が、「結い」の精神というものを時に煩わしいものとして、知らず知らずに敬遠してしまふ事もあるのではないかと、反省させられる所です。

先程からの話にもありますように、地域が、農村が元氣を取り戻して活性化して行く為には「結い」の精神をどう活かして行けるのか、今一度自分の事として考えて見る事が重要であるのかなと強く感じた所です。松田町長さんもおっしゃった震災後の他者との関わりをどう考えるかということ、そこにかなり意識的に考えるようになったとおっしゃっておられましたが、まさにそういう事が「結い」の精神の原点なのかなと思つております。震災におきましては、震災直後から世界中から東北の方々の我慢強さや規律の正しさが高く評価されました。併せて、「結い」という言葉に象徴される譲り合いの精神が賛美されています。また、復興・復旧に際しては新しい町作りや農村コミュニティの復興に「結い」の精神を活用して行けないだろうかという声も聞かれるようになりました。それは、被災地の復興だけでなく、過疎化や担い手不足による長い間低迷し



た状態が続いている農村の振興にもあてはまるのではないかと感じます。

さて、ここからは本日のフォーラムのテーマである「結い」の精神（このころ）を秋田の元氣や農村振興、東北の復興に生かしていくにはどのようにしたらよいでしょうか。という議題に入りたいと思ひます。どのような取り組みが有効か、どのような可能性を持つているのか。皆さんの考えをお聞かせ頂ければと思います。

初めに松田町長様、特に紹介にありました町作りや環境保全と言つた点で、新たな発想や取り組み、バージョンアップしていくような取り組みなど、何かお考えがありましたら、それと、先程環境教育についてお話もございました。今日参加して頂きました未来の担

い手であります子供さん達が、家に帰つて家族の皆さんにきつとお伝え頂けると信じて、子供さん達に向けてメッセージがありましたら、それも合わせてお話頂けますでしょうか。

### ●松田 氏

今、美郷町がおかれている環境の中で、町民が何を守るべきかと言ふ考えを共有する事が非常に大切であると私は思ひます。美郷町は合併して7年になりますが、やはり優先すべきは地域の一体感、その地域の一体感を醸し出すには何が大切なのか？私達は今「水」を大切なテーマに加えております。町では「水環境保全条例」を作り、水を守る事によって地域のコミュニティ、あるいは美郷町の共通資源としての「水」に対する思いを深めて頂きたいということで頑張つていくつもりです。

具体的には、今ある名水をより町民の共有資源として深めるため、水の大切さを広めて行きたいと思ひます。来年、秋田大学との共同の取り組みとしてヒーリングスポットとしての清水の活用を考えています。これが、東北の復興、秋田の農村復興にどう繋がるかと言つと非常に難しい問題ではあるのですが、やはり守るべき事は何か、共通テーマを共有する。更にそれを言葉ではなく活動として目に見せる事。活動と一緒に参画していく事。その心がまさに「結い」の精神であり、その事がひいては秋田あるいは東北全体の農村振興に繋がるのではないかと考え

ます。

子供達には、是非とも今、目の前にある当たり前の環境が当たり前に存在するのではなく、他者がいて初めて存在している当たり前の環境なんだ、つまり当たり前を当たり前と思わない気持ちを長く持ち続けて欲しい。柔軟な心を持ち育て続けて欲しい。そういう事を伝えたいと思ひます。

### ●平野 氏

伊藤理事長様にお聞きしますが、農村の振興の為には地域農業が継続的に維持されて行くことが大切と考えるのですが、その農村の要となる農業用水を守り、上手に利用していく、あるいは農地そのものを守つて行く為には「結い」の精神をどのように活かして行くのが有効であるかお考えでしょうか。若者の農業離れの傾向が続くなかで、その打開策が「結い」の中に見いだせるのか、お考えがあらましたら教えてください。

### ●伊藤 氏

私も土地改良区は、管内に水を配る役割ですので、それはおかげさまで順調に行われております。ただこれを未来に渡つて継続していく事となりますと、最も大切な事は後継者を育成するという事だろうと思ひます。これは土地改良区にあつても、あるいは地域にあつても、最も大切な事になるうかと思ひます。そのために、私達は施設の見学会を開いて、広く農家だけではなく小学生あるいは、非農家の方々にも見て頂く、そし



てこの水というのは、「仙北平野を流れている水は、先人の弛まぬ努力、そしてみんなの心のこもった力の限り流れているんだよ」と言うことを、見ていただきながら感じ取って頂きたい。こんなふうに思っています。

有り難い事に、農地・水・環境保全向上対策事業というものがございいます。今年で5年目です。これとタイアップした地域、集落あげての水路の管理・保全といったことに効果を上げております。来年以降も続くと伺っておりますので、どんな生かして行きたい。そして農村にもコミュニティという空気、そして「結い」という精神をもう一度取り戻していきたいというふうに考えております。

## ●平野 氏

次に、菅原様いかがでしょうか。特に身近にある農村の歴史や風土あるいは苦難を乗り越えてきた先人の生き方を学ぶ事の意味などを踏まえながら、「結い」のもつ農村振興における可能性というものについてお聞かせ下さい。

## ●菅原 氏

秋田もそうですが、日本全体は水系社会だと思っています。やはり水と言つのは、干ばつもあるし災害もあるということで地域全体で管理し、平等に利益を共有すると言つのがベースにあると思います。そのベースの中から、「結い」の精神や営農活動もそうですし、文化もおそらく共同で営われてきたと思います。

今回の大震災を受けて思いだすのが、秋田県峰浜村で、昭和38年に「石川大火」がありました。そこは190戸くらいの村ですけど、ほぼ全焼、全滅しております。全滅した時に何をしたらかと言うと『石川駒踊り』という伝統文化を復活させたんです。石川駒踊りの道具も全部燃えたんですけど、その伝統文化を復活させて、村の団結と復興のエネルギーを1つにして、そうやってその復興を10年で成し遂げています。

菅江真澄が記録した通り秋田では昔から不作・凶作・飢饉が数年おきに起きていますので、それで五穀豊穡を祈るほんとに村人の農家の祈りを捧げた貴重な伝統文化があります。

平成26年に国民文化祭が秋田で開催される訳ですけど、そういった村々に伝わる物を村人全員で結集して全国にアピールして頂ければ本当に有り難いと思います。

## ●平野 氏

ありがとうございます。では最後に齊藤様、今回の意見交換の総括的な意味合いを含めて一言お願いいたします。

## ●齋藤 氏

私はずっと用水に携わってきました。土地改良事業の調査と設計ということで、途中からはダムとか水路とか。冒頭の挨拶でも申し上げましたが「語り」ということが凄く大事なんじゃないか、そういう事を思います。石川理紀之助、菅江真澄だって多分「語り部」

だったんじゃないかと思っています。平野先生のようなプロの方もいらつしやるのですが、誰もが平野さんのまねは出来ないと思います。でも私は思います。「声に出して言う」これが大事なんじゃないか。今日も小学生、中学生の方がいらつしやっていますが、小学生、中学生の方に勉強しなさいと・・・そんな事よりも家でお父さん、お母さんに話かけて下さい。お父さん、お母さんは是非子供さんの言う事に耳を傾けて下さい。映像とか文字とかもいいですが、本当に一生懸命やっている人の言葉というのは、魂がこもっている。人の気持ちを保護する事が基礎だと思つし、感動を与えられると思います。

私が思うに、水路を作るとか、堰を作るとかそういう事も大事なのですが、例えば施設の管理とか、農地・水保全活動つまり1万ヘクタールの水路の末端には、農家が農業をできるように水を配分すると言つことはどんな苦勞があるのか。それは個人の農家の方の努力も大事なんです。土地改良区という組織は理事長がみんなを率いて、ちゃんと末端まで水を配ると言つ事がどんなに大切かという事に尽きると思います。そういう事を色々考えてみると、主役と言うのは土地改良区の方とか農家の方とか住民とか市民とかじゃないかと思っています。

阪神淡路や今回の東日本震災で皆さんの活躍なり、ボランティアの活躍を見て、やはり日本は凄いなと、やっぱり日本人はそういう気持をもっているんだと本当に良

く分かりました。大変な時代ではありますが、みんなが主役、みんなで復興に向けて、それから農村の活性化に向けて協力して行けたらと思います。

今日、こうやって秋田県の方とか、秋田県土連、地球人会議とか皆さんの御協力のもとで、このような会が美郷町で開催されたことは非常に画期的な事だと思います。なかなか小学生・中学生それから年配の方まで、こんな会はめつたにないのではないかと。そういった事自体が素晴らしい事ではないかと、そう思つて話しを終わります。

## ●平野 氏

ありがとうございます。これまでの話を皆様からお伺いして、「結い」の精神はその土地の歴史や風土、文化と密接な関係にあると感じました。そうした事からも、身近にある疎水や農地の歴史、それを現代に生きる我々に、引き継ごうとした先人の思いや、生き方を学ぶ事は、自分自身のふるさとに対する自信と誇りを呼び戻す事にほかならないと感じています。そしてそれが、農村の振興や発展の原点であると思われてなりません。古来より「結い」の精神で維持されてきた農地や水を始めたとした農村のもっとも大切な地域資源をどう保全していくのか。そして地域の宝ともいえる地域資源をどう効果的に活かして行くのか。そのためには、日本人の心のDNAとして誰にでも備わっている古来から恵まれてきた「結い」の精神からの、お一人お一人のアプローチ



チが今こそ必要ではないだろうか。そして気持ちを強く致しました。皆様はどう感じになられたでしょうか。今日のフォーラムを通して、私自身も語り部・カタリストとして、農村の歴史や文化を語り継いで行く事の大切さ、重要さを再確認いたしました。そしてこれからこの語りの手法を農村の進展や発展に少しでも役立てていきたいと決意を新たにしております。本日は、長時間にわたり「語り部交流会 in あきた」熱心にお聞きいただき最後までお付き合い下さいまして、本当にありがとうございます。パネラーの皆様も本当にありがとうございます。(拍手)

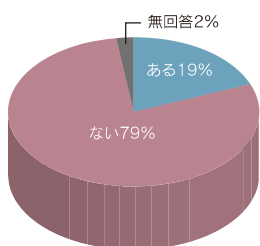




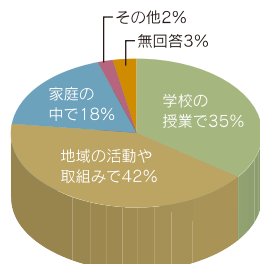


## 「2011 語り部交流会 in あきた」アンケート結果

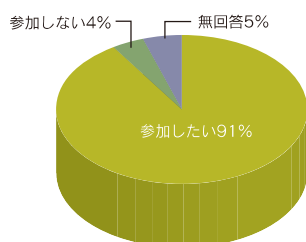
Q.今回のようなお話を  
これまでに聞いたことが  
ありますか？



Q.子供たちに語りを伝えて  
いく場合、どのような方法  
で語り継いでいくべきだ  
と思いますか？

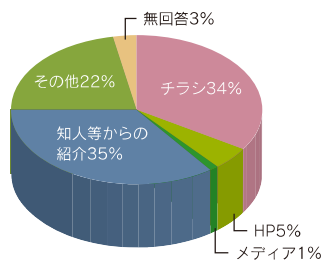


Q.次回も、同様の語り部  
交流会があったら参加  
したいと思いますか？

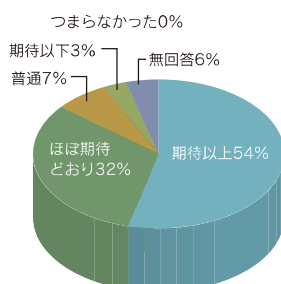


アンケートへのご協力  
ありがとうございました。

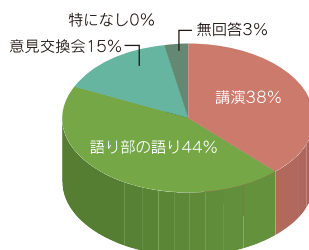
Q.今回の語り部交流会の  
開催を何で知りましたか？



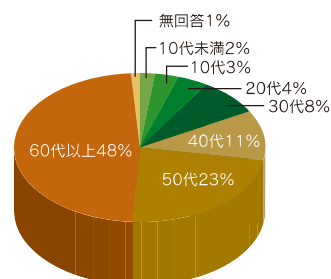
Q.今回の語り部交流会の  
内容はどうでしたか？



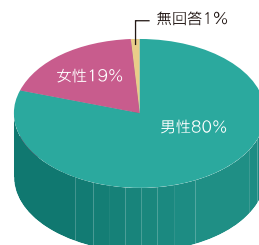
Q.今回の語り部交流会で  
興味を引いた内容は  
ありましたか？



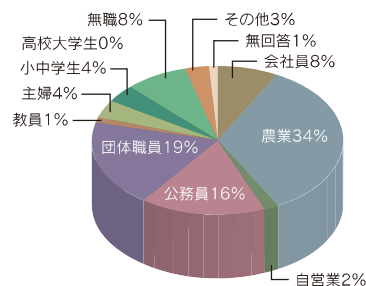
Q.あなたの年齢は？



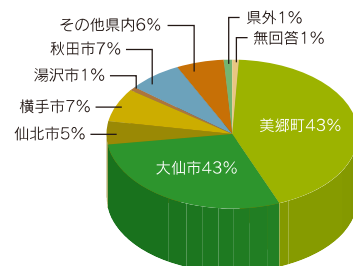
Q.あなたの性別は？



Q.あなたのご職業は？



Q.どちらから  
来られましたか？



# あなたの声が“原動力”！ 一緒に活動に参加しませんか。

## 【食料】

我が国の食料自給率は41%、もし輸入農産物がなかったら…。  
食料自給率の向上は、私たち一人ひとりの課題です。



## 【環境】

「水」、「土」、「里」は私たちが生きるために必要です。  
今、安全・安心なものはどれですか？



## 【ふるさと】

緑豊かな田園、心の豊かさと安らぎ、そして人間らしさ…。  
あなたは、子供たちに何を伝えますか。



「あきた 食料・環境・ふるさとを考える地球人会議」は、安全な食料の確保のため、環境に優しい社会の創造のため、そして緑豊かなふるさとを子供たちに引き継ぐため、みんなで考え、発言し、行動する組織です。一人ひとりの力が活動の原動力です。みなさんの参加をお待ちしております。

### 地球人会議の活動内容

- ①シンポジウムやセミナー等の開催と参加
- ②パンフレットや情報誌等の発行
- ③アンケート調査等による会員との意見交換
- ④インターネット等を活用した会員との情報交換

**感想をお聞かせください。**

「大地の恵み」は、皆さんの声を反映した情報誌にしたいと考えています。  
皆さんのご意見・ご感想をお待ちしております。

①「大地の恵み」の内容に対する意見・感想 ②地球人会議の活動に関する意見・感想

■ 水土里ネット秋田内 地球人会議事務局 TEL 018-888-2742 FAX 018-888-2834 E-mail: [chikyu@akidoren.com](mailto:chikyu@akidoren.com)

「大地の恵み」は地球人会議発行の情報誌です。  
地球人会議の会員や公的な機関および多くの方々が集う施設等で、  
回読誌としてご利用いただければ幸いです。



### (シンボルマークについて)

緑豊かな地球を守り、未来へ手渡したいという地球人会議の願いを象徴しています。  
緑の地球をシンボリックに表し、芽生えた新芽は、会員一人一人の地球に対する優しい思いやりの心を表現しています。